参考資料６－１

令和７年度先導的大学改革推進委託事業

大学入学者選抜における多様な評価方法の実態把握・分析に関する調査研究（成果報告書概要）

令和8年3月

株式会社 進研アド

調査目的・調査概要

1. 調査目的

文部科学省は、高校教育・大学教育・大学入学者選抜を一体的に改革し、高校までに培った力を大学教育へ円滑に接続することを目指している。特に大学入学者選抜では、「学力の三要素」※を多面的・総合的に評価する方向へ転換が進められている。

その一環として、総合型選抜や学校推薦型選抜においては、出願書類に加え、各大学が実施する評価方法等や大学入学共通テストのいずれかを活用することが求められている。

しかし、多様な評価方法として実施される①小論文・レポート・エッセイ、②面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論、③総合問題については、大学ごとに実施方法や定義が異なり、共通理解が十分とはいえない。そこで、本調査ではこれらの評価方法の具体的事例を収集し、優れた点や課題、効果的な実施のポイントを整理する。最終的には、実施時の留意点をまとめたチェックリスト等を作成し、各大学の入学者選抜改善に資することを目的とする。

※ 学力の三要素は、「令和8年度大学入学者選抜実施要項」においては以下のとおり定義される。① 基礎的・基本的な知識・技能（以下「知識・技能」という。）、② 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（以下「思考力・判断力・表現力等」という。）、③ 主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度。

2. 調査概要

（1）調査方法

本調査は、全設問自由記述式の質問紙調査として実施した。Microsoft Word形式の質問紙を対象大学宛にメール送付し、メールで回答を回収。回答内容を確認後、必要に応じて一部の大学に対し、ヒアリング調査または補足の記述回答を依頼し実施した。

（2）調査実施期間

令和7年9月1日（月）～ 9月30日（火）

追加調査：令和7年10月8日（水）～ 11月5日（水）

（3）調査対象

調査対象は、文部科学省が取りまとめた「大学入学者選抜における好事例集」やその他の公表情報を参照し、学力の三要素を多面的・総合的に評価する工夫が認められる大学をまず抽出した。抽出に際しては、国公私立の別や地域分布（都市部・地方）に配慮し幅広く選定した。

次に抽出した大学に調査協力を依頼し、承諾が得られた大学を対象とした。

①小論文・レポート・エッセイ　８校

②面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論　８校

③総合問題　８校

計24大学からの回答を得た。

対象評価方法以外の評価方法を併せて実施している場合は、それらについても回答を求めた。

なお、調査協力依頼時には、大学名や選抜名等個別の事案が特定されないよう匿名化・一般化した上で結果を報告書にまとめる旨を条件として協力を得ている。そのため、報告書においても、大学名や固有名詞等は匿名化・一般化した形で掲載している。

2. 調査概要（続き）

（4）調査内容

＜共通項目＞

該当選抜の概要／導入の背景・理念／志願者像と位置づけ

成果の検証の有無と結果／高校からの評価・高大接続の観点／今後の検討事項

＜評価方法別項目＞

該当評価方法の内容／評価のねらい（評価することを想定している資質・能力、該当評価方法の選定理由）／設計・作問体制（設計・作問に関する体制、テーマ・設問の決定方法、見直しのタイミング等）／評価・判定方法（評価・判定体制、評価・判定基準の策定方法、複数の評価者による評価・判定の際の基準の共有・統一方法）／留意点／情報公表／課題・改善策

（5）有識者による調査研究協力体制の構築

本調査研究の推進にあたっては、大学入学者選抜における多様な評価方法等に関する専門的な助言を得るため、当該分野に知見を有する有識者で構成する会議体を設置し、会議およびメール等による意見交換を実施した。

調査内容、報告書、チェックリストについて随時助言・指導を受け、その意見を踏まえて調査研究を進めた。

■有識者会議 開催概要

	日程	形式	主な内容
第1回	令和7年8月21日	オンライン会議	調査内容の確認、調査対象校の選定
第2回	令和7年12月24日	オンライン会議	報告書およびチェックリスト（素案）に関する意見交換
第3回	令和8年1月23日～2月2日	書面確認	第2回の議論を踏まえた報告書・チェックリスト修正内容の確認

■有識者会議委員（敬称略・50音順）

	石井　秀宗	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 教授
座長	沖　清豪	早稲田大学文学学術院 教授
	酒井　淳平	立命館宇治中学校・高等学校 教諭
	椎名　久美子	独立行政法人大学入試センター 研究開発部 教授
	平川　裕美子	福岡県立八女農業高等学校 主幹教諭

（注）所属・役職は、本資料作成時点（令和8年3月現在）のものである。

本調査で対象とした評価方法の概要

本調査で対象とした①小論文・レポート・エッセイ、②面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論、③総合問題は、いずれも学力の三要素を多面的・総合的に評価するための手法として活用されている。

各大学の回答内容からは、一般選抜の学力検査（「教科・科目に係る個別テスト」）だけでは把握しきれない入学志願者の「自らの考えを論理的・創造的に形成する思考・判断の能力」や「思考・判断した過程や結果を的確に、更には効果的に表現する能力」などを把握するために今回対象となった評価方法を導入していることが確認できる。また、こうした評価方法では、記述・対話・協働的活動などの非定型的なパフォーマンスを評価対象とするため、一般選抜の学力検査（「教科・科目に係る個別テスト」）とは異なる性質の検討・準備・運営・評価の工夫が求められていることが各大学の取り組みからうかがえた。

■ 本資料では、調査結果の概要として、①～③の評価方法について、以下の事項を整理して示す。

- **各評価方法の実施形態と特徴**
- **実施上のポイント**

  組織・体制整備／進行管理とチェック体制／テーマ・問題・質問方針の設計／評価基準の策定／評価基準の共有と評価の一貫性・整合性の確保／振り返りと改善／当日の実施・運営上の留意点
- **実施に当たり留意すべき事項に係るチェックリスト**

各評価方法の実施形態と特徴

各評価方法の特徴

▼回答結果から整理した各評価方法の特徴

評価方法	実施形態と特徴	評価される主な資質・能力
小論文	課題文や資料（図表・グラフ等）を提示し、読み解いた上で論述する記述形式。課題の理解、論理的構成、的確な表現を通じて、大学の学びへの適性を見極める。テーマは文化・社会・経済・地域に関するものや志望分野に関連し、英語資料や英語記述を課す場合もある。	思考力・判断力・表現力、読解力、知識・技能、関心・意欲、主体性
レポート	与えられたテーマに対して論述で答える形式。背景・目的・方法・結果・考察などの構造的な記述を通じて、問いの立て方や説明の妥当性を評価する。模擬講義や動画視聴後の考察を課すなど、研究的・実践的な姿勢や学問的適正を評価する場合もある。	思考力・判断力・表現力、知識・技能、関心・意欲、主体性、探究心
エッセイ	個人の意見や体験を記述する形式。志望分野や教育内容への理解・適性、学びへの姿勢を評価する。論理性よりも個性や人柄を重視する。	思考力・表現力、人間性、主体性、関心・意欲
面接	個別面接もしくはグループ面接。提出書類（志望理由書、学修計画書、調査書等）をもとに質疑応答を実施。志望動機や学習歴、人物面を総合的に確認。進学後のミスマッチを防ぐ。	思考力・判断力・表現力、知識・技能、主体性・協働性・多様性、人物面、コミュニケーション力
口頭試問	個人単位で実施。事前課題や筆記試験の解答をもとに質疑応答。面接内で行われる場合も多い。短時間での応答や口述による表現力も評価対象。筆記に表れない理解度や思考過程を確認し、論理的に話す力や高等学校までの学習範囲における各教科の基本的な知識・技能を把握する。	思考力・判断力・表現力、知識・技能、コミュニケーション力
プレゼンテーション	個人単位で実施。資料は事前作成または当日提示された課題に基づき作成。発表後に質疑応答を行う面接を併用。構成力・発信力・理解力を評価し、大学での学びに必要な表現力を確認する。	思考力・判断力・表現力、知識・技能、コミュニケーション力、主体性・発信力
集団討論	受験者複数名でテーマに基づく討論や協働的アイデア創出を行う。ファシリテーターが進行（評価は行わない）。振り返りのレポートを課す場合あり。協働的に課題に取り組む姿勢や、グループ活動での役割を果たせるかを確認する。	思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・多様性、コミュニケーション力
総合問題	複数資料や課題文、講義等を提示し、読解・要約・考察を経て論述する形式。教科横断のテーマで、知識を組み込みながら論理を構築する力を問う。小論文より総合的な能力を評価する。	思考力・判断力・表現力、知識・技能（活用力）、読解力、主体性・協働性、関心・意欲、探究心

実施上のポイント

組織・体制整備／進行管理とチェック体制／テーマ・問題・質問方針の設計／
評価基準の策定／評価基準の共有と評価の一貫性・整合性の確保／振り返りと改善／
当日の実施・運営上の留意点

① 小論文・レポート・エッセイの実施上のポイント

【評価対象】 小論文・レポート・エッセイは、課題文や資料の読解・思考の展開・文章化という連続した過程を通じて「思考力・判断力・表現力等」を中心に、知識・技能や主体性などを把握する評価方法

【設計】 アドミッション・ポリシーに基づき、全学的統括のもとでガイドライン整備や年度ごとの見直しを実施

【評価】 複数教員体制とルーブリックにより、一貫性・公平性を確保

【特性】 一般選抜の学力検査（「教科・科目に係る個別テスト」）では問われにくい記述内容の多様性や解釈の幅を扱うため、この方式特有の検討・調整が必要

▼回答結果から抽出した具体的な実施上のポイント

【１】組織・体制整備
全学的な統括体制の構築／学部・学科・コース等の単位の設計体制／評価・判定を実施する組織の設置／責任体制の明確化／ガイドライン・マニュアル整備／作問者・校正者・点検者の役割分担／専門分野を活かした分担／幅広い分野の評価者の配置／複数名の教員による協議・分担／一人の受験者に対し複数評価者が関与／委員会や教員間の協議で決定／入試委員会や教授会での承認プロセス／複数評価者の合議で判定
【２】進行管理とチェック体制
入試関連部署による設計方針策定・プロセス管理／作問から印刷・採点までの一元管理／作問者の人選・校正・点検の工程管理／統括部門での責任者による進行確認／複数回の確認やファクトチェック
【３】テーマ・問題・質問方針の設計
本来自由であるべき事項（思想・信条にかかわること）を問うテーマは避ける／アドミッション・ポリシーに基づき設計／教育内容に基づき設計／知識だけでなく、思考力・論理性・表現力、意欲等を含む多面的な能力を評価／内容の多様性を尊重しながら論理性を重視／志望動機や学びへの関心・適性を重視／大学とのマッチングを確認／他の評価方法と一貫性を持たせ、多面的な資質を評価／アドミッション・ポリシーや募集要項との整合性を確認／難易度・分量の調整（受験者の知識で理解できるよう適宜補足説明を加える）／学習指導要領を意識／高校教育の範囲に配慮／提出書類の真正性の確認・AI利用への対応／教科書や過去問題等既出の出典は避ける／教科・科目に係る個別テストとの差別化
【４】評価基準の策定
複数名で協議して評価基準を作成／評価の観点と基準を定めたルーブリック等を作成／アドミッション・ポリシー、募集要項（公表している評価観点）、出題の意図を踏まえて策定／評価の観点明確化（知識・技能、志望分野理解、思考力・読解力・論理展開力、表現力、学修意欲、適性、大学の教育方針への理解・共感等）／受験者が解答してくる範囲を想定し、過不足のない観点の設定／作問段階から評価観点・基準を設計
【５】評価基準の共有と評価の一貫性・整合性の確保
試験前の評価者向け説明・打合せ・ガイダンスを実施／評価基準や評価方法の事前共有／同一採点者が同じ設問を採点／複数の選抜段階に同一教員が関与／採点後の複数教員による相互チェック／多重チェック体制を確保／複数評価者の評価結果に大きなずれがある場合は個別に協議し妥当性を検証
【６】振り返りと改善
毎年度の検証と見直し／年度ごとの見直しタイミングを設定／出題の妥当性や難易度を検討／評価・判定基準の妥当性を検討／設計・作問、評価・判定の妥当性・信頼性の確保と検証／継続的な改善協議／担当者の負担軽減策の検討

② 面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論の実施上のポイント

【評価対象】 面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論は、対話・発表・相互作用を通じて、主体性・協働性・判断の適切さ・コミュニケーション力を直接確認する評価方法

【設計】 質問方針・評価観点の共有、面接と口頭試問の運用方針の違いを踏まえた準備を実施

【評価】 事前ガイダンス、評価者研修、複数評価者による観察結果の共有・調整で一貫性を確保

【特性】 一般選抜の学力検査（「教科・科目に係る個別テスト」）とは評価対象や当日の運営設計が大きく異なるため、方式特性に即した準備や体制整備が必要

▼回答結果から抽出した具体的な実施上のポイント

【１】組織・体制整備
全学的な統括体制の構築／学部・学科・コース等の単位の設計体制／教授会、入試委員会、入試担当部門で評価・判定体制を構築／責任体制の明確化／ガイドライン・実施要領整備／出題者・点検者・評価者の役割分担／幅広い専門分野の教員が設計／幅広い分野の評価者の配置／複数名の教員による協議・分担／一人の受験者に複数評価者が関与／委員会や教員間の協議で決定／入試委員会や教授会での承認プロセス／入試委員会や教授会での最終判定／複数評価者の合議で判定
【２】進行管理とチェック体制
入試関連部署による設計方針策定・プロセス管理
【３】テーマ・問題・質問方針の設計
本来自由であるべき事項（思想・信条にかかわること）を問うテーマ・質問は避ける／アドミッション・ポリシーに基づき設計／知識だけでなく、思考力・判断力・表現力等・協働性等多面的な資質を評価／思考力・表現力を測る普遍的なテーマ設定／大学とのマッチングを確認／募集要項の記載事項に基づき設計／出身高校や評定が評価に影響しないように配慮／地方受験者の情報格差に配慮し、評価基準を工夫／高校ごとの情報教育格差への配慮／提出書類の外部関与・AI利用について確認
【４】評価基準の策定
委員会等で協議して評価基準を作成／評価の観点と基準を定めたルーブリック等を作成／アドミッション・ポリシー、募集要項（公表している評価観点）を踏まえて策定／評価の観点明確化（知識・思考力・表現力・主体性・協働性・コミュニケーション力・倫理観・適性・探究心・志望理由や学修計画の具体性・研究への熱意等）／評価のためのマニュアルや評価ポイントの作成
【５】評価基準の共有と評価の一貫性・整合性の確保
試験前の評価者向け説明・打合せ・ガイダンスを実施／評価基準、マニュアル、評価のポイントの事前共有／事前課題の出題意図・答案の傾向を共有し、前提情報の共通理解を図る／評価者研修を実施（ロールプレイング・動画視聴・行動例提示）／新任面接担当者はベテランとペアで実施し現場でフィードバック／質問方針、質問例、評価基準の統一・共有／評価者間で評価について協議／多面的観察を重視し複数評価者で協議を行わない場合もある／評価は原則絶対評価／評価後に複数教員で相互チェック／評価を一覧化した上で外れ値は確認し、妥当性を個別に協議／判断保留時は最終責任者が判断
【６】振り返りと改善
毎年度の検証と見直し／年度ごとの見直しタイミングを設定／アドミッション・ポリシーの変更、学習指導要領の改訂、志願者数・入学者数の推移、入学者の傾向、選抜結果の分析に基づいた見直し／実施方法や評価の妥当性を検証／評価・判定基準の妥当性を検討／継続的な改善協議とPDCAサイクルの確立／テーマを継続する場合は、影響について検討／担当者（教職員）の負担軽減策の検討
【７】当日の実施・運営上の留意点
人権・プライバシーに配慮／質問禁止項目やガイドラインを明文化し共有／ネガティブな質問や威圧的言動を避ける／受験者がリラックスできる雰囲気づくり／評価過程の記録管理で透明性を確保／時間管理を徹底し、公平性確保と運営効率化／受験者の時間的負担への配慮
評価方法別の留意事項
面接・口頭試問では、志望動機や適性について掘り下げた質問で確認／プレゼンテーションでは資料の作成・調査への努力・練習量を評価／プレゼンテーションでのICT環境の整備／集団討論では発言回数より発言の質や合意形成への貢献を重視／集団討論では発言が少ない受験者から意見を引き出す工夫

③ 総合問題の実施上のポイント

【評価対象】 総合問題は、課題文や複数の資料の統合や共通テーマの抽出、論理的な構成による表現を通じて、教科横断的な「思考力・判断力・表現力等」および知識・技能の活用力を評価するための評価方法

【設計】 複数分野教員による協働作問、複数回のチェック、前年度データ分析による難易度調整など、扱う内容の広がりに応じた体制を整備

【評価】 複数評価者による採点、仮採点・合議・基準調整を通じて一貫性を確保

【特性】 一般選抜の学力検査（「教科・科目に係る個別テスト」）とは問う内容も解答のあり方も異なるため、方式特性に即した作問・採点・品質管理が必要

▼回答結果から抽出した具体的な実施上のポイント

【１】組織・体制整備
作問のための委員会等を組織して作問体制を構築／評価・判定を実施する組織の設置／幅広い専門分野の教員による作問チームを編成／複数名の教員による協議・分担／複数名の教員による採点／委員会や教員間の協議で決定／入試委員会や教授会での最終判定
【２】進行管理とチェック体制
複数回のチェック・調整プロセスを実施／品質管理（出題ミス防止）と標準化の取組
【３】テーマ・問題・質問方針の設計
本来自由であるべき事項（思想・信条にかかわること）を問うテーマは避ける／知識だけでなく、思考力・表現力等を測る設計／教科横断的な思考力を問う問題構成／教科を横断して多様な課題文や資料を組み合わせた課題を設計／講義を課題に組み込む／前年度の平均点・点数分布・解答傾向を参考に難易度を調整／高校教育の範囲に配慮
【４】評価基準の策定
出題意図や公開されている評価観点を踏まえて策定／作問段階から評価基準を設計／作問担当者が採点基準を作成／採点前に仮採点を実施し基準調整
【５】評価基準の共有と評価の一貫性・整合性の確保
採点者への綿密なレクチャーを実施／レクチャーでは、キーワードや誤答例を共有／採点時に評価基準を評価者間で再検討・協議し共有／公平な採点と評価精度の確保に向けた工夫／同一採点者が同じ設問を採点／採点後の複数教員による相互チェック／多重チェック体制を確保／複数評価者の評価結果に大きなずれがある場合は個別に協議し妥当性を検証／中央値補正法による得点調整
【６】振り返りと改善
担当者の負担軽減策の検討

実施に当たり留意すべき事項に係るチェックリスト

①「小論文・レポート・エッセイ」実施におけるチェックリスト

※本チェックリストは、各大学における評価方法の立案・実施に資する参考資料として位置づけるものであり、記載事項に則していないことをもって不適切な選抜と判断するものではない。
※ *の付された項目は、明確な正答を前提としない非定型の記述形式を扱う小論文・レポート・エッセイの特性を踏まえ、求める人材像との整合性を踏まえた出題の妥当性の確保、評価基準の明確化と共有、評価者間の一貫性の確保、複数教員による作問・評価の体制の整備など、運用上の配慮が特に求められる観点である。

【０】導入目的の確認

- □ アドミッション・ポリシーとの整合性を確認し、学部・学科の教育理念に沿って導入されているか
- □ 志願者像（求める資質・能力）が明確になっているか
- □ 学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」）のうち、評価の重点と理由、方法が明確になっているか
- □ 他の評価方法との補完関係が明確か（大学入学共通テスト、面接など）
- □*高等学校までの学習範囲における各教科の基本的な知識・技能の担保や人物評価を補完する仕組みがあるか

【１】組織・体制整備

- □ 該当選抜にかかわる入試業務を統括する組織（入試委員会や入試担当部署等）が設置・整備されているか
- □ 該当選抜の単位の組織（学部・学科等）で、設計・実施・評価・判定体制が構築されているか
- □ 設計・実施・評価・判定に関する責任体制が明確になっているか
- □ 設計・実施・評価・判定にかかわるガイドライン・マニュアル等が整備されているか
  （例：責任体制、実施における留意事項、遅刻・不正・緊急時対応、人権配慮）
- □ 作問・点検・校正・評価など各工程の担当者と役割が明確になっているか
  - □*教員の専門分野の特性を活かした分担がなされているか
  - □*評価者の専門性が偏らないよう配慮されているか
- □*設計・作問・評価・判定の各工程が複数の教員によって実施されているか
  - □*評価において、一人の受験生に対して複数の評価者が関与しているか
- □ 設計・作問の最終決定が、教授会・入試委員会等による協議・合議を経て行われる体制が整備されているか
- □ 評価・判定の最終決定が、教授会・入試委員会等による協議・合議を経て行われる体制が整備されているか

【２】進行管理とチェック体制

- □ 設計・実施・評価・判定までの工程が統括部署で一元管理され、進行状況を記録・確認できる仕組みがあるか
  （工程例：素材選定、作問案作成、点検・校正、評価観点・基準作成、印刷、実施、採点・評価、判定）
- □ 責任者が進行状況を定期的に確認しているか
- □*作問後に、作問者以外の者も含めて、点検・校正・確認を複数回経るプロセスが整備されているか

【３】テーマ・問題の設計

- □ 本来自由であるべき事項（思想・信条にかかわること）を問うテーマは避けているか
- □ アドミッション・ポリシーや求める資質・能力に即して設計されているか
- □*選抜単位の該当組織（学部・学科等）の教育内容や学びの特性に即して設計されているか
- □*多面的な能力を測る設計がされているか
  （例：知識・技能、思考力・論理性・表現力、学びへの関心・意欲、適性等）
- □ 募集要項の記載事項と整合性があるか
- □ 難易度や分量が適切であるか
  - □*難易度が高い場合、受験生の知識に基づいて理解するための補足説明があるか
- □ 高校の学習指導要領を逸脱していないか（実施時点で履修済みの範囲を考慮）
- □ 性別、年齢、現役・既卒の別、出身地域、居住地域等の受験生の属性による不公平を最小限にする設計がなされているか
- □*事前提出形式の場合、受験者の独力で作成したものかを確認できるように設計されているか（例：課題について口頭試問で内容を確認する等）

①「小論文・レポート・エッセイ」実施におけるチェックリスト

※本チェックリストは、各大学における評価方法の立案・実施に資する参考資料として位置づけるものであり、記載事項に則していないことをもって不適切な選抜と判断するものではない。
※ *の付された項目は、明確な正答を前提としない非定型の記述形式を扱う小論文・レポート・エッセイの特性を踏まえ、求める人材像との整合性を踏まえた出題の妥当性の確保、評価基準の明確化と共有、評価者間の一貫性の確保、複数教員による作問・評価の体制の整備など、運用上の配慮が特に求められる観点である。

【４】評価基準の策定

- □*評価基準は、評価観点と基準で整理されているか
- □*アドミッション・ポリシーに基づいた評価観点・基準が策定されているか
- □*多面的な能力を評価する観点・基準が策定されているか
  （例：知識・技能、思考力・論理性・表現力、学びへの関心・意欲、適性等）
- □*評価観点は、受験生の解答内容を想定し、過不足のない設計がされているか
- □*作問の段階から評価観点・基準を検討・設計しているか
- □*評価基準のほか、解答例、採点マニュアル、評価のポイント等が整理されているか
- □*評価基準は、評価者間で共通理解を得られるよう明確に整理されているか

【５】評価基準の共有と評価の一貫性・整合性の確保

- □*試験前に評価者向けの説明会・ガイダンスが実施されているか
- □*評価基準について、評価者間で協議・合議を通じて基準の共通理解が図られているか
- □*評価の一貫性を担保するための仕組みが整備されているか
- □*採点後、評価結果が基準と整合しているかを複数の教員で相互チェックする仕組みがあるか
- □*複数評価者の評価に大きな差が生じた場合に、必要に応じて確認・見直し等を行う仕組みがあるか
- □*評価責任者が採点結果を確認し、基準との整合性をチェックしているか

【６】振り返りと改善

- □ 振り返りの時期（例：選抜実施直後など）が明確に設定されているか
- □ テーマ・問題設計、評価・判定について、妥当性、公平性・公正性の観点から振り返りを行っているか
- □ 振り返りの結果を、次年度以降の作問・評価設計に反映しているか
- □ 改善に向けた協議が継続的に行われているか
- □*担当者の負担軽減策を検討しているか
  （例：担当者の入れ替えによる負担分散、DX化等）

②「面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論」実施におけるチェックリスト

※本チェックリストは、各大学における評価方法の立案・実施に資する参考資料として位置づけるものであり、記載事項に則していないことをもって不適切な選抜と判断するものではない。
※ *の付された項目は、面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論が、当日の応答や相互作用の過程を対象として評価する、単一の正答を前提としない評価方法であることを踏まえ、求める人材像との整合性に基づく設計の妥当性の確保、評価基準の明確化・共有、評価者間の一貫性の確保、複数評価者・役割分担等の体制整備、当日の実施運営上の留意点など、運用上の配慮が特に求められる観点である。

【０】導入目的の確認

- □ アドミッション・ポリシーとの整合性を確認し、学部・学科の教育理念に沿って導入されているか
- □ 志願者像（求める資質・能力）が明確になっているか
- □ 学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」）のうち、評価の重点と理由、方法が明確になっているか
- □ 他の評価方法との補完関係が明確か（大学入学共通テスト、事前提出書類など）
- □* 高等学校までの学習範囲における各教科の基本的な知識・技能の担保や人物評価を補完する仕組みがあるか

【１】組織・体制整備

- □ 該当選抜にかかわる入試業務を統括する組織（入試委員会や入試担当部署等）が設置・整備されているか
- □ 該当選抜の単位の組織（学部・学科等）で、設計・実施・評価・判定体制が構築されているか
- □ 設計・実施・評価・判定に関する責任体制が明確になっているか
- □ 設計・実施・評価・判定にかかわるガイドライン・マニュアル等が整備されているか
  （例：責任体制、実施における留意事項、遅刻・不正・緊急時対応、人権配慮）
- □ 面接・進行・評価など各工程の担当者と役割が明確になっているか
  - □* 教員の専門分野の特性を活かした分担がなされているか
  - □* 評価者の専門性が偏らないよう配慮されているか
- □* 設計・評価・判定の各工程が複数の教員によって実施されているか
  - □* 評価において、一人の受験生に対して複数の評価者が関与しているか
- □ テーマ、質問方針の最終決定が、教授会・入試委員会等による協議・合議を経て行われる体制が整備されているか
- □ 評価・判定の最終決定が、教授会・入試委員会等による協議・合議を経て行われる体制が整備されているか

【２】進行管理とチェック体制

- □ 設計・実施・評価・判定までの工程が統括部署で一元管理され、進行状況を記録・確認できる仕組みがあるか
  （工程例：テーマ設定、質問案作成、評価観点・基準作成、実施、評価、判定）
- □ 責任者が進行状況を定期的に確認しているか

【３】テーマ・質問方針の設計

- □ 本来自由であるべき事項（思想・信条にかかわること）を問うテーマは避けているか
- □ アドミッション・ポリシーや求める資質・能力に即して設計されているか
- □* 選抜単位の該当組織（学部・学科等）の教育内容や学びの特性に即して設計されているか
- □* 多面的な能力を測る設計がされているか
  （例：知識・技能、思考力・論理性・表現力、協働性、コミュニケーション力、学びへの関心・意欲、適性等）
- □ 募集要項の記載事項と整合性があるか
- □ 難易度や分量が適切であるか
  - □* 難易度が高い場合、受験生の知識に基づいて理解するための補足説明があるか
- □ 高校の学習指導要領を逸脱していないか（実施時点で履修済みの範囲を考慮）
- □ 性別、年齢、現役・既卒の別、出身地域、居住地域等の受験生の属性による不公平を最小限にする設計がなされているか
- □* 前提となる書類が事前提出形式の場合、受験者の独力で作成したものかを確認するような質問設計がされているか

②「面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論」実施におけるチェックリスト

※本チェックリストは、各大学における評価方法の立案・実施に資する参考資料として位置づけるものであり、記載事項に則していないことをもって不適切な選抜と判断するものではない。
※ *の付された項目は、面接・口頭試問・プレゼンテーション・集団討論が、当日の応答や相互作用の過程を対象として評価する、単一の正答を前提としない評価方法であることを踏まえ、求める人材像との整合性に基づく設計の妥当性の確保、評価基準の明確化・共有、評価者間の一貫性の確保、複数評価者・役割分担等の体制整備、当日の実施運営上の留意点など、運用上の配慮が特に求められる観点である。

【４】評価基準の策定

- □*評価基準は、評価観点と基準で整理されているか
- □*アドミッション・ポリシーに基づいた評価観点・基準が策定されているか
- □*多面的な能力を評価する観点・基準が策定されているか
  （例：知識・技能、思考力・論理性・表現力、協働性、コミュニケーション力、学びへの関心・意欲、適性等）
- □*作問の段階から評価観点・基準を検討・設計しているか
- □*評価基準のほか、評価マニュアル、評価のポイント等が整理されているか
- □*評価基準は、評価者間で共通理解を得られるよう明確に整理されているか
- □*事前提出書類や事前課題についての質問をする場合、課題の意図が反映された評価観点が設定されているか

【５】評価基準の共有と評価の一貫性・整合性の確保

- □*試験前に評価者向けの説明会・ガイダンスが実施されているか
- □*評価基準について、評価者間で協議・合議を通じて基準の共通理解が図られているか
- □*研修会等で、面接手法や評価基準の理解を促す機会が設定されているか
- □*評価の一貫性を担保するための仕組みが整備されているか
- □*採点後、評価結果が基準と整合しているかを複数の教員で相互チェックする仕組みがあるか
- □*複数評価者の評価に大きな差が生じた場合に、必要に応じて確認・見直し等を行う仕組みがあるか
- □*評価責任者が採点結果を確認し、基準との整合性をチェックしているか

【６】振り返りと改善

- □ 振り返りの時期（例：選抜実施直後など）が明確に設定されているか
- □ テーマ・問題設計、評価・判定について、妥当性、公平性・公正性の観点から振り返りを行っているか
- □ 振り返りの結果を、次年度以降の作問・評価設計に反映しているか
- □ 改善に向けた協議が継続的に行われているか
- □*質問方針・テーマを前年から継続する場合、継続による影響（例：対策の影響確認、受験生の多様性の確認）を定期的に検証し、対応策を講じているか
- □*担当者の負担軽減策を検討しているか
  （例：担当者の入れ替えによる負担分散、DX化等）

【７】当日の実施・運営上の留意点

- □*人権・プライバシーに配慮し、不適切な質問を排除するガイドラインがあるか
- □*受験生が過度に緊張しないような工夫があるか
- □*その場での評価記録（点数・コメント・モデレーション記録）が管理されているか

評価方法別の留意事項

面接・口頭試問

- □*知識だけでなく、思考過程や判断力を確認できる質問が含まれているか
- □*受験生が事前に準備した想定問答だけで対応できないような、受験生の回答を掘り下げる質問が設定されているか
- □*提出書類、筆記試験、事前課題等について、掘り下げる質問が設定されているか

プレゼンテーション

- □*発表内容の構成力・表現力・問題解決力を評価できる観点が設定されているか
- □*受験生がプレゼンテーションで使用する端末・機材について、ICT環境による不具合を防ぐための対策（提出形式統一・事前確認）があるか

集団討論

- □*協働性・傾聴力・発信力等を多様な観点で評価できるよう工夫されているか
- □*発言回数ではなく発言の質や合意形成への貢献も重視する観点が評価基準に設定されているか
- □*発言の少ない受験生に対して、ファシリテーターが発言を促す仕組みがあるか

③「総合問題」実施におけるチェックリスト

※本チェックリストは、各大学における評価方法の立案・実施に資する参考資料として位置づけるものであり、記載事項に則していないことをもって不適切な選抜と判断するものではない。
※ *の付された項目は、総合問題が、教科横断的な思考や論述を対象とする、単一の正答を前提としない評価方法であることを踏まえ、求める人材像との整合性を踏まえた出題の妥当性の確保、評価基準の明確化と共有、評価者間の一貫性の確保、複数教員による作問・評価の体制の整備など、運用上の配慮が特に求められる観点である。

【０】導入目的の確認

- □ アドミッション・ポリシーとの整合性を確認し、学部・学科の教育理念に沿って導入されているか
- □ 志願者像（求める資質・能力）が明確になっているか
- □ 学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」）のうち、評価の重点と理由、方法が明確になっているか
- □ 他の評価方法との補完関係が明確か（大学入学共通テスト、面接など）
- □*高等学校までの学習範囲における各教科の基本的な知識・技能の担保や人物評価を補完する仕組みがあるか

【１】組織・体制整備

- □ 該当選抜にかかわる入試業務を統括する組織（入試委員会や入試担当部署等）が設置・整備されているか
- □ 該当選抜の単位の組織（学部・学科等）で、設計・実施・評価・判定体制が構築されているか
- □ 設計・実施・評価・判定に関する責任体制が明確になっているか
- □ 設計・実施・評価・判定にかかわるガイドライン・マニュアル等が整備されているか
  （例：責任体制、実施における留意事項、遅刻・不正・緊急時対応、人権配慮）
- □ 作問・点検・校正・評価など各工程の担当者と役割が明確になっているか
  - □*教員の専門分野の特性を活かした分担がなされているか
  - □*評価者の専門性が偏らないよう配慮されているか
- □*設計・作問・評価・判定の各工程が複数の教員によって実施されているか
  - □*評価において、一人の受験生に対して複数の評価者が関与しているか
- □ 設計・作問の最終決定が、教授会・入試委員会等による協議・合議を経て行われる体制が整備されているか
- □ 評価・判定の最終決定が、教授会・入試委員会等による協議・合議を経て行われる体制が整備されているか

【２】進行管理とチェック体制

- □ 設計・実施・評価・判定までの工程が統括部署で一元管理され、進行状況を記録・確認できる仕組みがあるか
  （工程例：素材選定、作問案作成、点検・校正、評価観点・基準作成、印刷、実施、採点・評価、判定）
- □ 責任者が進行状況を定期的に確認しているか
- □*作問後に、作問者以外の者も含めて、点検・校正・確認を複数回経るプロセスが整備されているか

【３】テーマ・問題の設計

- □ 本来自由であるべき事項（思想・信条にかかわること）を問うテーマは避けているか
- □ アドミッション・ポリシーや求める資質・能力に即して設計されているか
- □*選抜単位の該当組織（学部・学科等）の教育内容や学びの特性に即して設計されているか
- □*多面的な能力を測る設計がされているか
  （例：知識・技能、知識の応用力、思考力・論理性・表現力、幅広い学びへの関心等）
- □*教科横断的に複数分野の知識や視点を組み合わせて問う問題が設計されているか
- □ 募集要項の記載事項と整合性があるか
- □ 難易度や分量が適切であるか
  - □*難易度が高い場合、受験生の知識に基づいて理解するための補足説明があるか
- □ 高校の学習指導要領を逸脱していないか（実施時点で履修済みの範囲を考慮）
- □ 性別、年齢、現役・既卒の別、出身地域、居住地域等の受験生の属性による不公平を最小限にする設計がなされているか

③「総合問題」実施におけるチェックリスト

※本チェックリストは、各大学における評価方法の立案・実施に資する参考資料として位置づけるものであり、記載事項に則していないことをもって不適切な選抜と判断するものではない。
※ *の付された項目は、総合問題が、教科横断的な思考や論述を対象とする、単一の正答を前提としない評価方法であることを踏まえ、求める人材像との整合性を踏まえた出題の妥当性の確保、評価基準の明確化と共有、評価者間の一貫性の確保、複数教員による作問・評価の体制の整備など、運用上の配慮が特に求められる観点である。

【４】評価基準の策定

- □*評価基準は、評価観点と基準で整理されているか
- □*アドミッション・ポリシーに基づいた評価観点・基準が策定されているか
- □*多面的な能力を評価する観点・基準が策定されているか
  （例：知識・技能、知識の応用力、思考力・論理性・表現力、幅広い学びへの関心等）
- □*評価観点は、受験生の解答内容を想定し、過不足のない設計がされているか
- □*作問の段階から評価観点・基準を検討・設計しているか
- □*評価基準のほか、解答例、採点マニュアル、評価のポイント等が整理されているか
- □*評価基準は、評価者間で共通理解を得られるよう明確に整理されているか

【５】評価基準の共有と評価の一貫性・整合性の確保

- □*試験前に評価者向けの説明会・ガイダンスが実施されているか
- □*評価基準について、評価者間で協議・合議を通じて基準の共通理解が図られているか
- □*評価の一貫性を担保するための仕組みが整備されているか
- □*採点後、評価結果が基準と整合しているかを複数の教員で相互チェックする仕組みがあるか
- □*複数評価者の評価に大きな差が生じた場合に、必要に応じて確認・見直し等を行う仕組みがあるか
- □*評価責任者が採点結果を確認し、基準との整合性をチェックしているか

【６】振り返りと改善

- □ 振り返りの時期（例：選抜実施直後など）が明確に設定されているか
- □ テーマ・問題設計、評価・判定について、妥当性、公平性・公正性の観点から振り返りを行っているか
- □ 振り返りの結果を、次年度以降の作問・評価設計に反映しているか
- □ 改善に向けた協議が継続的に行われているか
- □*担当者の負担軽減策を検討しているか
  （例：担当者の入れ替えによる負担分散、マークシート併用、DX化等）